

開業以来、医療施設50件以上の施工実績

仙台市中心部でのクリニック等の医療施設の増加が目を見ている。都心立地型の施設も増えコロナ禍以降、より清潔感と安心感ある待合室が導入されるなど患者共用部の衛生対策も進んでいる。7月には仙台駅改札内に早朝や夜間にも診察が受けられるクリニックが開業するなど受診者の利便性向上につながる取り組みも目立ち始めた。医療機器メーカーやコンサルタントと連携し、仙台を中心に東北・関東地方で医療施設や商業施設の施工を数多く担ってきたスタイルの千葉正基代表取締役に最新の医療施設のトレンドなどを聞いた。

貴社の事業概要は。

千葉 東北・関東地方において商業施設、店舗やオフィス、クリニック、ペットショップなど民間物件をメインに設計・施工を手掛けている。昨年度で設立20周年を迎えて、このうち医療関連施設は開業以来50件以上の施工実績を有している。従業員は7人で職員は全員一級建築施工管理技士および監理技術者を取得している。これを強みに設計段階から分かりやすい説明と提案を常に重視し、お客さまに喜ばれる施設を提供できるようプロフェッショナルな集団であることを意識している。

—— 仙台市内にクリニック等施設が増えてきている。

スタイル 千葉正基代表取締役に聞く

千葉 関東圏と比べるとまだ少ないが仙台市内も都心型のクリニック等が増加傾向にある。主要駅前、オフィス街の立地が目立ってきており、業界用語では『ビル

診（ビル診療所）』と呼ばれている。私たちは医師、スタッフの方々が働きやすい環境を整えられるように設計段階から要望を聞き入れて、医療者側も受診者側も満足いただける施設を提供できるよう日々努めている。

—— 安心感や清潔度の高い印象を与える内装のクリニックが増えている。どのような観点で設計を行っているか。

千葉 近年、新型コロナウイルスのまん延に伴い、待合室の配置や人の出入りが多い受付スペースなど、お客様とスタッフがそれぞれ動線を確保できる環境を重視してほしいという要望が増えてきている。40歳から50歳当り



で開業するドクターが多く、女性のドクターもいっそう増えている。昔に比べるとドクターの考え方が多様化している部分があり、照明や医療機器の配置など小さな部分にも配慮して設計を行っている。私たちは医療機器メーカーやコンサル会社の開業チームと連携しながら、時代の背景に沿ったデザインを心掛けています。また、クリニックの近接地には調剤薬局を置くケースが多いので、立ち寄りやすい内装や患者のプライバシー保護のため特別なパーテーションを導入するなどしている。

—— クリニック以外の施工事例も多い。

千葉 仙台市内を中心にペットショップやペットクリニックなども多く施工を担当している。命を預かる施設となるので、犬、猫などにストレスを与えないような展示スペースとするなどの観点を重視し整備して

いる。最近では高齢化したペットを預ける老犬施設も誕生するなど、ペット業界も変化している。

—— 今後の展開は。

千葉 今年3月に融資実行となった七十七銀行の「77サステナビリティー・リンク・ローン」を実行しながら、人口10万人当たりの医療施設数が全国平均を下回る地区における医療施設の施工件数を2028年5月期までに年間およそ4件に伸ばすことを目標に挙げている。このローンは社会の持続可能性に対する貢献度を客観的に測定するための目標に資金調達を融資してもらうもので、宮城県内では医療施設数が全国平均を下回る地区があるため、切れ目ない医療体制の強化へ、当社の施工ノウハウを活かし県内の地域社会に貢献していきたい。そして、医療施設をはじめ専門的な商業施設の整備は、誰にも負けないという自覚をスタッフ全員で持ち、経験値を活かしながら仕事を増やしていきたい。

時流が求める医療施設環境を提供